

富山県が 「わな設置、検証も」 イノシシ 従事者証

【富山】イノシシやニホンシカによる農作物被害が深刻化する中、富山県は15日、初の捕獲専門チームの従事者証交付式を行った。早速、富山市東福沢で初となる活動を行った。チームは、県による安全で効率的・組織的な捕獲技術を学んだ2017年度の研修修了生8人と県猟友会のベテランの計16人で構成。来年3月中旬まで、わな40基を使い本格捕獲を行う。富山市の福沢公民館であった交付式で須河弘美

県生活環境部長は、大山地区チームの中川欣一リーダーと南砺地区チームの片山國丸リーダーに従事者証と安全ベストを手渡した。大山地区チームは早速、わなの設置場所選定のため現場へ出勤した。

捕獲チームは、12月中旬から2月下旬まで、狩りを4回行う。衛星利用測位システム(GPS)発信機や自動撮影カメラなどによる捕獲の検証も行い、イノシシやニホンシカの個体数管理に取り組む。

富山県捕獲専門チーム従事者証交付式



初出勤を前に参加者全員で記念撮影をする捕獲専門チーム(15日、富山市で)

足を早急に解消するため、県は若手の育成研修を継続し、20年度までに30人の修了生を輩出して、イノシシとニホンシカの捕獲強化を図る考えだ。

県内での推定生息数(15年度)は、ニホンシカ988頭、イノシシ4872頭と生息密度は増加中。特にイノシシによる農作物被害は、16年度が3885万

県産コシの 「特A」奪還を 石川県米麦改良協会

【いしかわ】石川県米麦改良協会は14日、理事会と通常総会を金沢市の県農業会館で開き、県産米を質、量とも底上げすることを基本方針とする今年度事業計画などの3議案を可決した。

日本穀物検定協会の食味ランキングで、昨年度の県産「コシヒカリ」の評価が「A」から「Aダッシュ」に下がったことを受けて、3年前の「特A」奪還に向けた取り組みの強化を基本方針に明

園芸産地復興へ 花咲ふくい 青果サミットで懇談

【ふくい】JA花咲ふくい管内の生産者からなる花咲ふくい園芸組織協議会は14日、花咲青果サミットをあらわら市内で開いた。生産者と市場、JA関係者が、園芸振興に

向けて意見を交わした。管内では2月の大雪で約300棟のハウスが倒壊し、今年は定植の遅れや作付面積の減少があることが報告された。

長、県内外の5市場の担当者がJA役員ら38人が参加した。協議会の平嶋康一会長が「大雪で大打撃を受けたが、今年度は産地復興をメインテーマに早期の再建を図りたい。丹精した農産物を少しでも高く販売してほしい」とあいさつ。JAの富田勇一組合長は「大雪

や高齢化の影響で生産者が若年減るかもしれないが、JAも精いっぱい支援して産地を維持していきたい」と述べた。

市場関係による不作が懸念され、18年度の市場への販売目標は当初計画より約1億円減らした9億9500万円とした。今年からの試みでは、選果時に糖度計を活用して高糖度のメロンや梨を差別化して販売する計画を示した。



野菜栽培に挑むJA金沢中央の職員

野菜栽培にチャレンジ

JA金沢中央職員

J A金沢中央の職員が12日、金沢市のビニールハウスに野菜の苗を定植した。ほとんどの職員に畑作の経験がないため、昨年からの全職員による野菜作りが始まった。今年度は昨年の2倍近い約70人が参加した。

ハウスに集まった職員に田村政博

組合長が「昨年はうまく育った。それ以上においしく育ててほしい」と激励。栽培アドバイザーを引き受けた北本嗣朗さん(81)らの指導を受け、畝作りや定植に励んだ。

今年度は9区画に分け、班別に好みのナス、金時草、トマトなどを植えた。新入職員の小堀麻奈歌さん(18)は「おいしく育てたい」と話した。

(いしかわ)

「いちほまれ」田

JA花咲ふくい管内130ha作

【花咲ふくい】JA花咲ふくい管内で15日から、「いちほまれ」硬化苗の田植えが始まった。「いちほまれ」は昨年の試験栽培を経て、今年度

から本格栽培管内では昨年の130haの130haの89生産者が「コシヒカリ」で倒伏に陥



J A石川県中央会の西の赤堀益男石川支局長に「今月末まで沢耕一会長が「石川米全 続き、祝辞に立った県農 受け付ける」と述べた。